

# 中学校【外国語科】「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

岐阜教育事務所

## 1 主体的・対話的で深い学び（中学校学習指導要領解説 総則編 P78 一部抜粋）

- 「主体的な学び」… 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる。
- 「対話的な学び」… 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める。
- 「深い学び」… 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう。

## 2 「中学校外国語科に係る見方・考え方」を働かせとは（中学校学習指導要領解説 外国語編）

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。

## 3 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善例

つかむ	【主体的な学び】	【対話的な学び】	【深い学び】
深める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が興味、関心を示すような場面や状況を提示する。</li> <li>・動画、写真、図表などを活用する。</li> <li>・ALT を活用したコミュニケーションモデルを提示する。</li> <li>・既習表現を活用しながら、コミュニケーションモデルを示して、本時の目指す姿を確認する。もしくは、終末に向けた活動に取り組みせ、課題の達成に向けて必要な表現や語彙を考えさせる。</li> <li>・生活経験がある内容や、社会や世界との関わりのある題材を示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スモールトークや帯活動での対話活動において、既習表現を想起・活用できるような話題を提示する。また、対話の継続性を促すような価値付けを行う。</li> <li>・題材について、理解したり、自分なりの考えがもてたりするよう、調べ学習やマッピングなどの活動の時間を確保する。</li> <li>・聞く視点を明確にしたり、聞いた内容に対して質問をさせるなど、聞き手に「聞く」必然のある場面を設定する。</li> <li>・課題を達成するために、段階的な言語活動を設定する。</li> <li>・自分の思いや考えを伝え合うことができる活動を設定する。</li> <li>・与えられたフレーズだけでなく、即興的なやり取りになるような状況を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間の「見方・考え方」に触れることができるように、交流の場面に必要に応じて設ける。</li> <li>・自分の考えや思いが表出するように、教科書の内容や初見の表現を活用する。</li> <li>・自分の考えを深めることができるように、複数回の対話活動を行うようにする。（言語活動→指導→言語活動→指導…）</li> <li>・仲間の発表の表現内容と自分の表現を聞き比べながら、新たな気づきが増えるように助言する。</li> <li>・活用した言語表現や得られた情報の内容等やコミュニケーションしての感想を交流することで、学びを実感できるようにする。</li> </ul>
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容面・言語面で自らの学習のまとめと振り返りを行う。</li> <li>・最初に行ったペアと再度対話を行うなど、自己の成長を実感させる。</li> <li>・単元末では、ルーブリック評価などを行い、生徒にフィードバックし、次時、もしくは次単元の意欲につなげる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞いたり読んだりした表現から、自分の考えを再構築しアウトプットにつなげることで、言語活動を統合的に行う。</li> </ul>

「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養